

平成 28 年度

東京都教職員研修センター紀要

第 16 号

平成 29 年 3 月

は じ め に

東京都教職員研修センターが実施している「教育課題研究」は、教育課題の解決に資する研究を進め、その成果を広く普及・啓発することで、教員の指導力向上に寄与することを目的としています。

昨年 12 月に、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が出されました。学習指導要領等の改訂の方向性等が示され、我が国の教育は大きな転換期を迎えています。

答申では、2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来において、一人一人の子供たちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示しています。また、グローバル化による社会の多様化や急速な情報化、技術の革新が人間生活を変化させつつある中、教育の在り方も新たな局面を迎えていることも述べています。今後、子供たちの学びを更に充実させていくために、教員の専門性をこれまで以上に高めていくことが求められています。

このような中、今年度、東京都教職員研修センターでは、以下の三つの研究に取り組み、その成果を本紀要にまとめました。

「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、各教科等の特性を踏まえるとともに、児童・生徒一人一人の「分かり方の特性」に着目した指導法について研究し、授業改善の視点を開発しました。

「変化の激しい時代を生き抜く資質・能力の育成（2年次）～『主体的・対話的で深い学び』を通して、子供たちに求められる資質・能力を育む学習指導について～」では、変化の激しい社会に対応するために求められる資質・能力をアクティブ・ラーニングの視点に立って育成することをねらいとして、授業改善に資する各教科等の指導法について開発しました。

「東京都公立幼稚園 5 歳児の運動能力に関する調査研究」では、幼児教育の充実及び小学校教育との連携を推進するために、幼児の運動能力の実態及び幼児の遊び、健康・体力づくりに関する各園の取組について調査し、幼児の運動能力の変容を把握・分析しました。

以上の研究は、平成 29 年 1 月に策定された東京都教育施策大綱にある「全ての子供たちに基礎・基本を確実に習得させる取組の推進」、「一人一人の子供に応じたきめ細やかな教育の推進」等の方針ともそれぞれ関連しているものです。

各教育委員会や学校におかれましては、本紀要に掲載した研究内容等を、教育課程の工夫・改善、教員の資質・能力の向上や家庭や地域に対する啓発など、教育課題の解決に向けて活用していただければ幸いです。

結びに、当センターの教育課題研究の推進に当たり、関係教育委員会をはじめ、様々な検証授業に御協力いただいた学校の先生方、多くの御示唆や御助言をいただいた研究調査委員の方々に御礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月

東京都教職員研修センター所長
伊 東 哲

目 次

1 子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究	3
2 変化の激しい時代を生き抜く資質・能力の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供たちに求められる資質・能力を育む学習指導について～（2年次）	35
3 第13回 東京都公立幼稚園5歳児の運動能力に関する調査研究	59
【資料編】	77
研究に携わった所員・教員研究生・調査委員等	145